

令和6年度「市長と語り合う会」について（吉田地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和6年 10月21日（月）	市民学習センター	19:00～19:45	5	0	5

○ 市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、福祉環境次長、建設部長、上下水道部長、会計管理者、秘書課長

2 会の概要

○ 開 会（秘書課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○ あいさつと市政方針の説明（山本市長）

〔現状（課題）〕

・ 地震を始めとする自然災害の脅威と防災対策の重要性

今年の元日に能登半島で大きな地震があったが、能登半島と益田市は、社会的、地理的な条件が似ていることから、この地震の様々な様子が益田市にとっても、防災対策上、大変参考になるとも考えている。例えば、人口減少とか、少子化高齢化、または道路の整備が進んでいない状況も共通していると考えている。来週、島根県総合防災訓練が益田市で開催され、大地震を想定した訓練を行うが、地震はいつ何どき起こるか分からないものであるので、地震災害の備えを改めて注意深くしていかないといけないと思っている。

・ 地球全体の気温上昇は容赦なく進行しており、脱炭素社会への移行はまさに焦眉の急

昨年の夏も観測史上で最も暑い夏とされていたが、今年はさらに輪をかけて暑くなっている。この地球温暖化は、二酸化炭素が増えている事、産業革命以降、二酸化炭素を排出する人間の暮らし方や生産の在り方が、原因であるとされており、二酸化炭素を出さない生活に移行していかないといけないと考えている。益田市においては、これまで、施設の照明をLEDに変えたり、施設の屋根に太陽光発電のパネルを設置したりして取り組んできた。また市役所で調達する電力も全て再生可能エネルギーによる電力に切替えており、こうした取組が今後必要になってくる。

・ 人口減少と高齢化が加速し、中山間地域における活力維持が日を迫るごとに困難となりつつある

吉田地区では、人口も世帯数も昨年に比べて増えており、また高齢化率も減少しているが、益田市全体の傾向としては、人口減少と高齢化が進み、中山間地域における生活機能を維持することが日を迫るごとに困難となっており、これらの対策が大きな課題である。

・ 萩・石見空港も大きな岐路

東京線については、現在、羽田発着枠政策コンテストというもので2往復運航となっているが、年間の搭乗者数の落ち込みにより、このコンテストによる貴重な1枠が確保できるかどうか分からないという状況であった。大阪線についても夏季5日間の限定運航であるが、他の路線に比べ搭乗率が低いことから、ANAから大阪線の見直しについて申入れがあったが、丸山島根県知事と本社に行ってお願いし、何とか今年も5日間の運航を継続してもらったところである。現在のところ、東京線については、持ち直しているが目標達成に厳しい状況であり、大阪線については、目標の90%以上のほぼ満席に近い実績で、今後につながる結果となったが、今後とも何らかの形で事業拡大を図っていくよう考えている。

〔重点方針〕

・災害対策の強化

毎年のように直面している豪雨災害、そして万が一起こるかもしれない大地震災害にもしっかりと備えていく考えである。10月には、益田市で県の総合防災訓練が行われる。また7月の上旬には、市役所において、防災を想定した会議を行った。今後も、必要な体制、また備蓄品等しっかりと準備していきたいと考えている。またハザードマップについても、年々状況が変わっているため、新しい情報のものを作成し、各戸に配布する予定と考している

・地球温暖化への対応

地球温暖化への対応としては、市の公用車を排気ガスの少ないハイブリッド自動車や電気自動車へ切替えを進めている。またそれに伴う電気自動車等充電スタンドを、民間企業と連携し市の施設等に整備を進めているところである。

・中山間地域振興と交通維持

今後あるべき中山間地域の振興の在り方について、現在、中山間地域振興基本計画というものを作成中である。また、市内において特に問題となっているのが、バスによる公共交通機関で、運転士の確保がままならない状況となっている。交通事業者と連携し運転士確保、また市民の皆様にとって利用しやすい運行体制の在り方を考えていきたいと思っている。

・自治体D Xの推進

D Xとは、これまで人間の力で行っていた事を、なるべくコンピューターやA I等の機械に切替えていこうというものである。益田市では少しずつ取組を進めてきており、例えば、昨年から住民の方が亡くなられたとき、遺族の方の手続きを基本的に1カ所で手続きができるようなおくやみサポートサービスを実施している。また、いろんな申請書に手書きで書いていただいていたのを、職員が聞き取って書類を発行するというように変えてきている。こういう窓口をさらに広めていき、住民の皆さんにとって利用しやすいサービスを行っていきたいと考えている。また、書類の発行を市役所だけではなく、市内のコンビニエンスストアでもマイナンバーカードを使って発行できるようにして、より簡便にまた安く取得できるようにしているところである。

・益田市型中高一貫教育の推進

これまで益田市の教育施策については、特に社会教育等で地域住民の皆様と連携した取組みを進めてきた。小学校に上がる前の保育園、幼稚園等の段階から小学校、中学校、高校へ切れ目のない、つろうて子育て、あるいはライフキャリア教育ということを進めてきた。同時に、学力においても、今後さらに注力していく必要があると思っている。中学校、高校の6年間をなるべく一貫した形で行うことにより、カリキュラムの重複を避け、より学力を追求するのに適した体制をとることによって、高校卒業時の進路選択をより希望に沿ったものにしてもらえるよう教育体制の推進をさらに進めていきたいと思っている。現状では、例えば、市内の高校に委託し、小学生、中学生の夜間、休日の補強授業を行っており、市内の高校と市の教育委員会が連携した取組をさらに進めていきたいと考えている。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 敬老会について
- ② 水道水について
- ③ 自転車の活用について
- ④ 庁舎内の電器について
- ⑤ ひとまるビジョンについて
- ⑥ 資料の数値化について
- ⑦ 国道の整備について

令和6年度「市長と語り合う会」

〔会場 市民学習センター 開催日時：令和6年10月21日（月）19:00～19:45〕

要 望 事 項 等	回 答
① 敬老会について これまで、市から助成金を頂き高齢者福祉課を通して実施しているところだが、最近は、名前を出すということが非常に難しい状況になってきており、市から名前等の情報提供も無くなった。今後、自治会長が変わったりすると運営が難しくなっている。これからの敬老会の在り方、やり方について、検討頂きたい。	① 市としても、開催の在り方、特に案内をどうかけていただくかということについて苦慮している。以前であれば、対象者の氏名を地区の社協または自治会等にお示し、ご案内をしていただいていたが、個人情報の管理の難しさや問題点が顕在化してきている。市としても、今後どういうやり方で進めていくのか検討したい。
② 水道水について 今朝のニュースで水道水に化学物質が含まれていることが報道されていた。私も高齢になり飲物や食べ物に気をつけているが、益田市はどのような状況か。生水を飲んでもいいのか。以前は鉛管を使用していたがその影響ではないのか。	② PFAS（ピーファス）という化学物質の件だと思うが、いわゆる火薬とかそういうものを使ったところで、都会では、ダムとか河川の表流水を水源としているが、益田市の場合は、ほとんどが井戸水なのでそういった心配はない。鉛管については、完全にはないとは言えないが、ほとんどは発見次第、更新しているので、そのようなものではないと考えている。
③ 自転車の活用について 脱炭素社会の取組として、市もノーマイカーデーとか、1キロ以内の近くへ行く場合等は、自転車を使う考えはないか。	③ 益田市でもノーマイカーデーや、8のつく日は自転車通勤の日という意識づけをしているが、なかなか普及していない。現状市の職員での自転車の活用としては、イーガと本庁の行き来において、レンタサイクルの協定を結び活用している。これをさらに広げていくよう進めていくと同時に、通勤、あるいは日常の移動に自転車などを活用していくよう働きかけをしていきたい。
④ 庁舎内の電器について 議場の電器が、12時から昼休み中ずっと点いている。階段も誰もいなくても点いている。もったいないので、消した方がいい。	④ 議場については、議会事務局に伝え検討させたい。他の庁舎の部屋については、市民の方が昼休み来られるところは消せないが、それ以外の部屋は、基本的には消灯をしている。階段については、いろいろな方が来られるので、なるべく省電力に務めて参りたい。
⑤ ひとまるビジョンについて 以前、ひとまるビジョンの普及率が悪いと意見を言ったが、その後何か対応されたのか。また、いつでも自由に見られるようインターネットで流す方が正解ではないか。彼らは非常にいいものを作っている。 ひとまるビジョンは、市とは組織は別でも市のためにやっているのではないか。	⑤ 基本的には、普及率の向上は、民間企業の経営改善のために上げてもらうものだと思うが、市としても、施設は公費を使って設置しており、有効に活用されるためには、加入率の向上も重要なので、連携して普及率の向上に努めているところである。 また、インターネットでの発信については、ひとまるビジョンで検討されることだが、有料サービスとなると手続が面倒で、無料で誰でも見られるという状況になると、ひとまるビジョンに加入する意味がなくなってくることもあり、そこまでいってないのかなと推察するところである。市が直接発信する情報については、なるべく情報を多元化しているところだが、効率的で効果的な情報発信の在り方を今後も探っていきたいと思っている。

⑥-1 資料の数値化について

市の作成する資料は、なぜ数字で表さないのか。年度当初の、事業計画を見ても何も数字がない。ただ一生懸命やりますっていうだけの方針である。内部ではあるのかもしれないが、なぜ市民が見られるところに数字が出てこないのかと思う。

⑥-2 資料での数値化について

中高一貫教育をやると書いてあるが、どんな成果が出るのかが知りたい。

⑦ 国道の整備について

養護学校へ自転車で行ったが、トヨペットから山陰道に入るまでの区間、路側帯が狭く危険である。通学する生徒もいるので安心して通れるよう働きかけてほしい。

⑥-1 市の施策での目標、成果の数値化については、一つは施策の個々の数値化となると、多岐にわたり一覧に示しにくいというところがある。数値化し出しているものとしては、予算、決算の説明資料があるが、もっと見ていただけるよう発信の仕方等考えていきたい。

⑥-2 事業では、短期で成果が出せるものと、あるべきところへ進めていくための準備期間が必要なものがあり、中高一貫教育については、まだ数字で示せるような成果を出せる段階まで到達していないところである。行政の施策は、長期的なものがあり、また市民の皆様にごえる便益や、福祉というのが、必ずしも数字だけで表せるものばかりじゃないと考えている。

⑦ 高津川沿いの道路については、川まちづくり計画で、サイクリングロードを整備する事業を進めてもらっているが、国道9号の安富の付近は、路側帯の狭い区間が残っているので、直轄する国のへ要望しているところである。少しでも安全性が確保できるようにしたいと思う。